

富山の歴史と文化

鈴木 景二

はじめに

- ・富山には古代以来の歴史と文化があるが、見えにくい。
- ・富山の歴史について、近年もいろいろな発見や研究がある。しかし、専門誌に掲載されるだけであったり報道されても一過性で、一般に共有されにくい。⇒県全域の歴史や文化について展示、公開する施設、たとえば県立歴史博物館などが無い。

＊県域全体を見渡せる場：CIC5階いきいき館ぐらい。富山駅で降りた人にその存在が分かるようになっていないのが惜しい。

- ・いろいろな歴史事象、地域の文化の再評価が進むことが、地域振興へもつながるのではないか。
- ・高校での郷土史学習の副読本の作成と一部の学校での試行。

＊新幹線開通の明暗は？

⇒今回は富山の歴史に関するいくつかの話題を紹介。

1、小竹貝塚 日本海側最大級の貝塚。縄文時代前期(約6000年から5000年前)の人骨が大量(72体)に出土。身長170cmの長身の男性も。県埋蔵文化財センターで展示中(～12月1日)。

＊溝口 優司『アフリカで誕生した人類が日本人になるまで』ソフトバンク新書

2、ヒスイ 糸魚川から富山県朝日町にかけての海岸でヒスイの原石が採取され玉づくり(加工)遺跡もある。縄文時代中期から古墳時代(一部奈良時代)まで各地へもたらされたヒスイは、ここで産出したもの。縄文時代に北海道まで及んでいる。日本海交易か。

戦前は、ミャンマーから輸入したものと考えられていた。

＊日本でのヒスイの再発見の経緯：松本清張「万葉ひすい」(『駅路』新潮文庫)。糸魚川市フォッサマグナミュージアム等に詳しい展示あり。

3、婦中地域の四隅突出型墳丘墓 ヤマト政権が日本列島を統一する直前、弥生時代には各地に個性ある文化があり、土器や墳墓の形に特徴があった。山陰地方特有の四隅突出型墳丘墓が、誰も想像しなかった北陸富山で発見。富山医科薬科大学建設の事前発掘調査(杉谷4号墳)。山陰と北陸の日本海交通を証明。出雲神話に、大国主が越のヌナカハ姫に求婚した話があり、それと関係か。

＊藤田富士夫『古代の日本海文化』中公新書、ほか。なぜ婦中地域のみなのか。

4、『万葉集』と大伴家持 富山ではないけれど…。

『万葉集』約4500首の和歌と、平城京などで出土している数万点の同時代の木簡の文字。クロスする字句が2008年になって3点出土。うち一点には「越中守」らしい文字も。

いつの日か家持が駐在していた越中国府(高岡市伏木勝興寺付近らしい)辺りから、万葉歌木簡が出土するかも。

＊1200年以上前の大伴家持本人の筆跡が奇跡的に2点現存(重要文化財・石川県2人の個人蔵)。

そのうちの1点が明日(20日)まで、石川県立美術館「石川県の名宝」でさりげなく展示中。

5、射水市出土の草仮名墨書土器 『古今和歌集』成立のころ漢字からひらがなが生まれた

- ・ 昨年のベストセラー『もういちど読む山川日本史』および高校の副教材『山川詳説日本史図録』第2版に掲載。射水市の赤田（あかんだ）I遺跡から出土した9世紀後半から10世紀はじめの土器に草仮名が書かれている。＊『木簡研究』第31号参照
- ・ 平安時代の貴族文化である平仮名や和歌の文化の貴重な実物が、富山で見つかっている。
＊小杉駅東方の竹内源造記念館に出土品を展示中（ただし草仮名墨書土器は複製）

6、立山の信仰と歴史 語るべきことが多い 氷河発見？ 世界有数の降雪量

- ・ 立山の信仰遺跡 県埋蔵文化財センターが調査中
- ・ 平安時代の終り11世紀ころには、全国的に有名な山岳霊場、特に地獄と女人救済が売り。
- ・ 上市の大岩山日石寺、黒河遺跡群 日石寺の磨崖仏は日本の石仏のなかでも有名
- ・ 立山信仰と三霊山（立山・白山・富士山）、昨年、富山県〔立山博物館〕で展覧会。
三山が見えるのは立山だけ。白山－富士山は地形の関係から物理的に見えない。
日本海辺の立山から太平洋辺の富士山がみえることの意義⇒信仰圏形成という歴史的事象の要因
＊現代のビューポイント「日本の幅を見渡せる！」 ちなみに富士山登山口のうち富士吉田から大月駅へ行き特急あずさに乗ると信濃大町まで直通でアルペンルートの方野側起点へ。

7、佐々成政のさらさら越え 厳冬期に立山を越えたのか

- ・ 天正12年（1584）冬に、周りを敵にした富山城主佐々成政が、徳川家康へ同盟を求めてみずから浜松へ往復した。城主が城を抜け出すということ、厳冬期に信州へ行ったということが話題。
- ・ 近年、関連史料（村上義長という人と佐々成政の書簡）が見つかり議論が活性化している。
A説：立山を越えたとする従来からの説（江戸時代以来の説）←厳冬期に越えられるのか
B説：実は神岡から旧安房峠を越えて信州に出た（服部英雄氏）
服部英雄「佐々成政のザラ越えと旧信濃国人・村上義長の動向」（ネットで読めます）
C説：実は糸魚川南部から千国街道を通行した（鈴木）←敵上杉氏の領知を突破するなどありえない。
D説：夏は立山越え、冬は安房峠越え、の二度浜松へ行った。（久保尚文氏）←史料に問題あり
＊どこを通ったかなど穿鑿する意味がない、という醒めたことをいう研究者もいるらしい。歴史観に関わる問題。

8、江戸時代の富山 前田氏の加賀藩と富山藩

- ・ 加賀藩四代光高・富山藩初代利次は徳川秀忠・江の孫。富山藩は、10万石で国持大名格の格が高い。
- ・ 富山城の研究の進展 絵図の研究の進展と城内外の整備にともなう発掘調査の成果。
大手門の位置：富山城の広さ。総曲輪通は南側の外堀。つまり総曲輪の内側は城内。大手門の基礎の石垣が発掘で出土。その地点にプレートを埋設。古絵図を手に城下町と北国街道の探訪も。
呉羽山を越える安養坊の峠部分は古道が残る。
- ・ 神通川船橋と鮎の鮨・鱒 とともに江戸時代から有名
- ・ 愛本橋（勿橋） 日本三奇橋とも。（猿橋、錦帯橋）うなづき友学館に2分の1の復原がある。
- ・ 売薬の歴史 北前船と昆布と薬種と密貿易 沖縄とならぶ昆布消費地の理由
有名なわりに江戸時代のこと、特に旅先のことがよく分からない。
他地域の史料に断片的に登場する。

A：琵琶湖の北、北国街道に残る売薬商の遭難碑（墓碑） *『富山史壇』第155号参照

B：信州牟礼宿の富山藩本陣の記録に売薬商の送金のことが書かれている。

A【碑文の概要】 遭難したのは富山の売薬商石動屋幸助と熊野屋亀二郎の二人。富山売薬商は、年間の四分の一を富山で薬を作って過ごし、残りの四分之三は行商に出る。彼らは辛丑年の春に湖南（滋賀県南部）に売薬に赴き、半年以上滞在して11月18日に営業を終え帰路についた。そして昼夜兼行し、20日には柳ヶ瀬を過ぎて椿坂峠に向かった。ところがこの日、天には俄かに雲がかかり大雪となった。しかし二人は、よほど先を急いだものらしく、雪の降る峠を越えようとして吹雪にまかれ、ついに帰らぬ人となったのであった。二人の泊まった宿屋の主人黒田屋五兵衛・加賀屋吉兵衛はこの遭難を知って深く哀れみ、人々と協力して遺体を収め、碑を建てた。

B【牟礼宿富山藩本陣柳沢六左衛門家の記録の関係部分】

富山の売薬商が飛脚便で送金していたことなど記されている。

むすび

- ・上記のほかにもさまざまな歴史と文化がある。芸能・祭礼も豊富。もちろん豊かな海と山の自然も。
- ・地元の人にも来訪者にも周知されれば、地域の振興にも有効。

*欧米人の観光面での富山の評価

『Lonely Planet JAPAN』10版（2007年10月）と12版（2011年10月）

【10版】

- 1、富山市は産業・工業中心の都市で旅行者には魅力が乏しいが、北アルプスや日本海沿岸への通り道として通過する。
- 2、（富山駅付近で）もし時間があつたら、長慶寺が五百羅漢で名高いし、民俗民芸村には伝統工芸・民俗美術・陶器・茶室が展示がされている。
- 3、富山でのユニークな食事として薬膳料理。富山駅で簡単に食べるなら、弁当屋の押し寿司（130円から）にトライ。
- 4、立山黒部アルペンルートの紹介 雄山←「推山」になったまま。
 - ・民俗民芸村の売薬資料館が欠落。薬膳料理の前提である富山のくすりのことに触れていない。富山の歴史的個性が埋没している。
 - ・押し寿司とあるが、鱒の寿司のことにも触れていない。
 - ・国宝瑞龍寺のことも、八尾（おわら）のことも出てこない。
 - ・黒部峡谷のトロッコ列車のことにも触れない。

⇒観光ガイドブックの方針として、限られたスペースで欧米人の好みそうなものを書いているのであろうが、欧米観光客の富山のイメージが反映されているのではないか。少なくとも取材したライターの影響を反映している。

*石川・長野の頁数との違い。

【12版】

富山県が、製薬・ジッパー製造・山を特色とすること、および岩瀬の街並み・白エビが加筆されている。